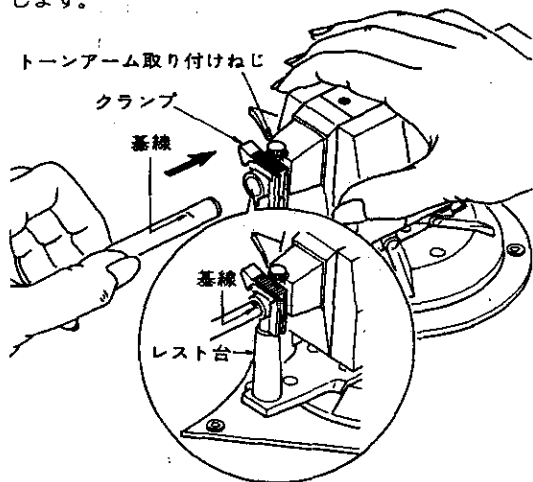


# 準備

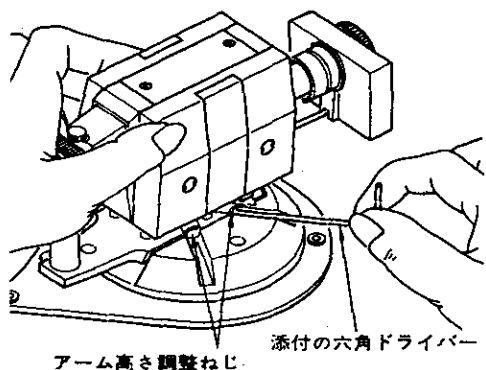
## ■ トーンアームの取り付け

トーンアーム取り付けねじをゆるめ、カートリッジの付いたストレート型アームを図のように基線がわずかに見える所までいっばいにさしこんでから固定します。



## ■ トーンアームの高さ調整

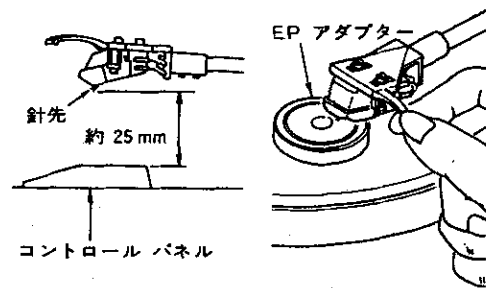
1. トーンアームをクランプで固定したまま、添付の六角ドライバーで図のようにアーム高さ調整ねじをゆるめ、トーンアームを上下に動かして針先がコントロールパネルから約 25mm となるようにトーンアームの高さを調整します。なお、調整後はアーム高さ調整ねじでしっかり締めつけておいてください。



2. クランプをはずし、トーンアームがストップするところまで軽く持ちあげ、針先がゴムシートより約 7-9mm であることを確認してください。

—— トーンアームの高さ調整が終わるまで、

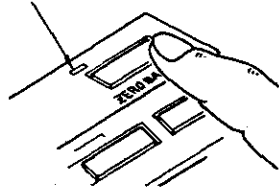
なお、添付の EP アダプターを使って図のように針先がアダプターに触れるか、触れない位置に調整されても結構です。



## ■ 針圧調整

1. 電源プラグをコンセントにさしこみ、POWER のボタンを押して本機に電源をいれたあと、ZERO BALANCE のボタンを押します。ボタンを押すと、ZERO BALANCE インジケーターが点灯します。

ZERO BALANCE  
インジケーター

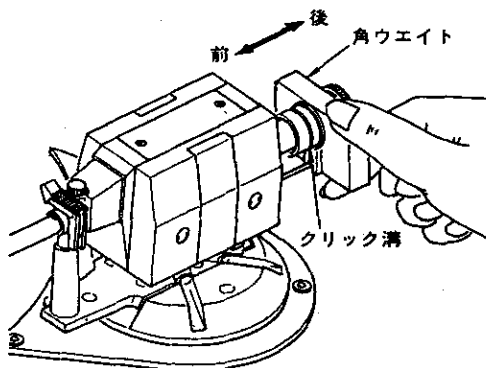


2. 角ウェイトを前後に移動させるとクリックで止まる位置が3つありますので、カートリッジの重量に合わせてお選びください。

前：3.5～8.0g のカートリッジ

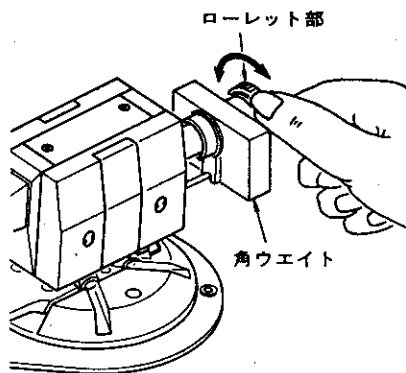
中：5.0～9.0g のカートリッジ

後：6.5～9.5g のカートリッジ



# ラグはコンセントにさしこまないでください —

3. 角ウエイトを動かさないようにしてメイン ウエイトのローレット部を回し、針先がレコード面に触れるか、触れない位置で止めます。



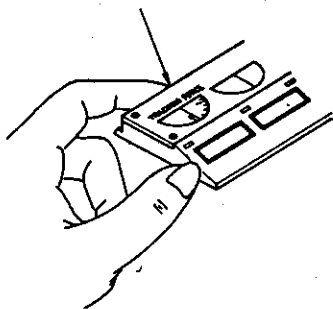
4. ZERO BALANCE のボタンを再度押して "OFF" にしますと、ZERO BALANCE インジケーターが消えて自動的にトーンアームはレスト台までもどされます。

トーンアームがレスト台にもどされたあと、クランプしてください。

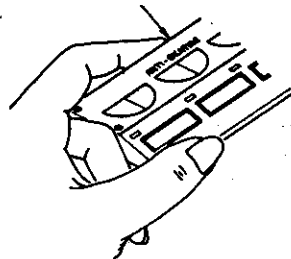
(注)・レコード演奏中に誤って電源を切ったり、あるいは 停電などがあつたような場合でもレコードや針先を傷つけないため、約 0.5g のバイアスをかけております。従つて、電源を切ったときのゼロ バランスと ZERO BALANCE スイッチを "ON" したときのゼロ バランスが違つておりますので、電源を切るとトーンアームが持ちあがるようになっております。

5. TRACKING FORCE、ANTI-SKATING、<sup>フォー</sup> Q DAMPING の各つまみを使用するカートリッジの針圧値に合わせます。

## TRACKING FORCE つまみ

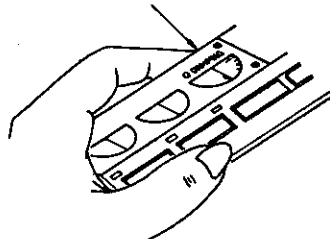


## ANTI-SKATING つまみ



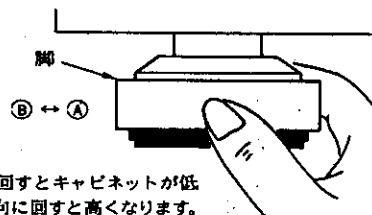
(注)・丸針をご使用になるかたは●印の目盛盤を、また 精円針やシバタ針は●印の目盛をそれぞれ使用するカートリッジの針圧値に合わせます。

## Q DAMPING つまみ



## ■ キャビネットの水平調整

キャビネットが水平になるように、脚の部分の部分を回して調整します。

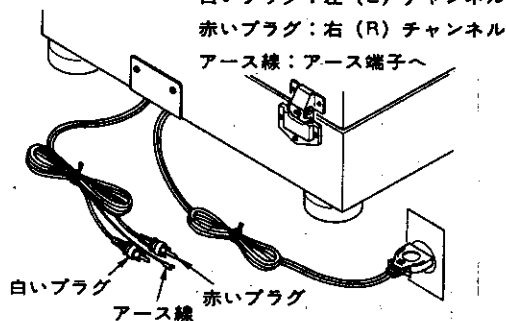


① 方向に回すとキャビネットが低く、② 方向に回すと高くなります。

(注)・キャビネットを引きずりますと、脚がねじれることがあります。そのようなときには、もう一度キャビネットをかかえて脚を水平にしてください。

## ■ アンプへの接続

アンプの "PHONO" 端子へ  
白いプラグ：左 (L) チャンネル  
赤いプラグ：右 (R) チャンネル  
アース線：アース端子へ

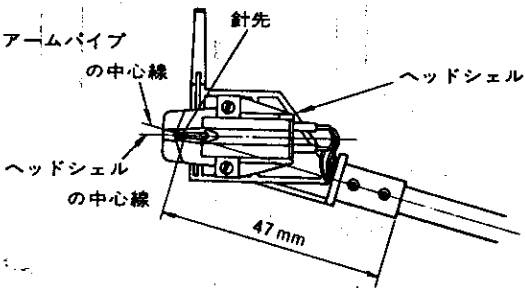


# 調整

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシェルを取り付けたり、交換したときにのみおこなうようにして、普段はいじらないでください。

## ■ オーバーハング調整

本機のストレート型アームでオーバーハングを調整する場合は、カートリッジを図のようにヘッドシェルに対して平行で、かつ端から針先までの寸法が47mmになるように、しかもアームパイプの中心線とヘッドシェルの中心線が交わる所に針先がくるようにしてください。



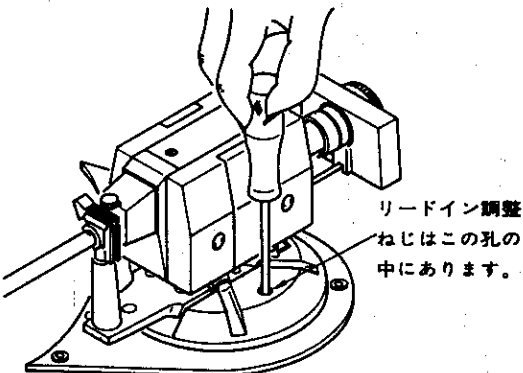
なお、±1mm程度の寸法誤差は、性能上問題ありませんので、安心してお使いください。

## ■ リードイン調整

30cmレコードで自動演奏をしたとき、針先がレコード盤の外周より内側へ3~4mmはいるように、マイナスドライバーでリードイン調整ねじを回してください。

この場合、リードイン調整ねじを右(↻)に回すと針先はレコード盤の内側に、また左(↺)に回しますと外側に降下します。

なお、リードアウトについては、リードイン調整によって自動的にリードアウトの調整もできるように設計されております。



# 保証とアフターサービス

## ■ 保証書には、購入年月日などが必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。



## ■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



## ■ アフターサービスのお問い合わせは

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



## ■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



## ■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



## ■ 修理依頼

修理を依頼される時は、お手数でももう一度「故障?と思う前に」の項(10ページ参照)をよくご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・ 型名: QL-Y55F
- ・ 住所、氏名、電話番号、道順
- ・ 訪問希望日
- ・ 故障状態をできるだけ詳しく

